

平成21年6月定例議会報告

平成21年6月定例議会が、6月5日～6月24日まで開催されました。下記の内容で一般質問を行い、真摯な御答弁をいただきました。質問の要旨を掲載いたしました。詳しくは、市議会のいちかわインターネット放送局で録画放送をご覧ください。市川市議会 録画放送 6月16日へとお進み下さい。直接は<http://ibs.city.ichikawa.chiba.jp/ibsw eb/topPage.do?id=962>です。

一般質問の主な内容は、

教員免許更新制について

- (1) 更新講習の内容と対象者について
- (2) 市川市教育委員会としての更新講習に対する考え方について

平成19年6月の改正教育職員免許法の成立により、平成21年4月1日から教員免許更新制が導入されることになりました。この制度自体は国の制度であるので市川市の教育委員会で講習を開催したりするものではありませんが、時代とともに子ども達を取り巻く環境の変化が著しく変わり、おきていることも昔では考えられないこともあります。そのような中、情報の収集や時代にあった講習をうけ、教員のスキルアップは直接触れる児童生徒たちにとってとても重要なことではないでしょうか。「教育の最新事情に関する事項」を12時間以上、「教科、生徒指導その他教育内容の充実に係る事項」を18時間以上、あわせて30時間以上受講し、修了することが義務付けられています。例として開設講座の中には、「子どもの発達に関する課題」「ネットいじめなど子どもの生活の変化」「学習指導要領の改訂の動向」「学校における危機管理上の課題」などがあります。昔ではこのような講座がとりあげられないような課題が出てきています。また、先生ごとに目標も違う部分に対して、学校管理者がどのように応援していくことも必要ではないでしょうか？時代が変わり、子どもも変わり、当然保護者も変わってきている中、先生達もついていけるように前向きに講習を受けるべきではないでしょうか。

ご答弁は、研修によってどのような成果を得ることができたのか、実態の把握に努め、有意義な講習になるようさまざまな助言や支援をし、この免許更新制という大きな改革が、教職員一人一人の、スキルアップとモラル向上に寄与し、ひいては児童生徒のためになる制度となるよう実施状況や課題の把握・改善に努めるということでした。

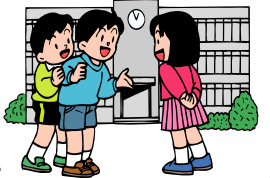


指導要録について

- (1) 幼稚園幼児指導要録の改善についての通知を受けての今後の対応と現状の課題
- (2) 幼稚園と小学校との緊密な連携についての考え方と方向性
- (3) 幼児指導要録・小学校指導要録・中学校指導要録の学校間連携に関する考え方について
- (4) 幼稚園以外の子供たちと小学校の緊密な連携について

指導要録とは、児童生徒の学籍並びに指導の過程とその結果の要約を記録し、その後の指導及び外部に対する証明等に役立たせるための原簿となるものです。今回この指導要録を取り上げたのは、幼稚園の指導要録が一部改善されたこと、幼稚園と小学校が緊密な連携をとるように進めるべきとの通知がありました。今までこの指導要録は、せっかく作っても小学校で学級編成をつくるときに活かされてなかったり、保育所園では要録がなく連携されていなかったりしていました。この平成21年度から保育所保育方針が改定され、保育所も保育所児童保育要録の写しを児童の就学先に送付することになりました。小学校には、私立幼稚園、公立幼稚園、認可保育所(公私)、認可外保育所、どこにも関わらなかった児童と幅広いところから就学となります。この指導要録というものを一つのツールとして、小学校を中心に連携していくことが大事ではないかと質問しました。子ども達の良い部分はより伸ばすために、足りない部分はみんなで応援すべきであると思います。公立の幼稚園と公立の小学校は連携しやすかったのですが、私立幼稚園や保育所はなかなか連携に進みづらいものがありました。

ご答弁は、今後「幼小連携モデル園・モデル校」としてそれぞれ指定し実践に取り組み、一定の成果を得ることができればそれを保育所との連携にも応用していきたい。また、教育委員会として、幼稚園・保育所と小学校、小学校と中学校の間での要録の授受と、情報交換の場の設定による実効性のある引継ぎ定着に努めていきたいとのことでした。期待したいと思います。



(仮称)市川市文学館整備事業基本計画について

- (1) 基本計画の内容と今後の方向性
- (2) 市川市独自の展開と内容について
- (3) 現在のいろいろな施設の今後のかわり方について



市川市が現在計画している(仮称)文学館整備事業基本計画についてお聞きしました。この計画は現在開設している数々の文化施策などをトータルで考えながら、文学プラザや生涯学習センターの今後の展開の考え方、市川市に関係のある著名な方たちの資料の整理や展示、収蔵方法なども含めて計画しています。脚本家の水木洋子さん、永井荷風さんなどを、はじめとして数多くの方たちをいかにアピールし文学的な遺産の継承をすることが鍵になると思います。新しく文学館という建物を建てるものでなく、中央図書館のある建物の中につくる計画です。他市の文学館などをいろいろと視察してみると特徴のある、わかりやすいものも多くありました。市川市も市民にわかりやすく特徴をもったものをつくるべきではないかと質問しました。

ご答弁は、現在のもや施設を有効利用しながら、市川市らしさを考えていきたい。また、既存の施設(グリーンスタジオ、ベルホールなど)を利用する方たちにも使い勝手が悪くならないように工夫したい。市内にある文化施設などとも連携できるようなことも考えて、市民の方に楽しんでいただけるように進めたい、とのことでした。私の考えとしては、今の時代多くの税金を投入しなくても楽しめる方法を考えることが大切とも思っています。